

令和7年度 第2回長岡京市図書館協議会 会議録

日 時：令和8年2月19日(木) 午前10時30分～正午

場 所：長岡京市立図書館 3階 大会議室

出席者：委員(7名)

郊滝会長、大川副会長、小山委員、浅田委員、大西委員、井内委員、田中久美子委員

欠席者：前田委員、田中久代委員、原田委員

事務局：西村館長、馬淵係長、高橋主査（文責）、林主事

傍聴者：なし

案件：（1）令和7年度図書館事業報告について

（2）令和8年度図書館事業計画（案）について

（3）その他

議事

1 開会

2 議題

(1)令和7年度図書館事業報告について

【事務局】

今年度の詳細な報告は、来年度の図書館協議会で行う。今回は、京都新聞に記事が掲載されたものを中心にピックアップして中間報告とする。

・「絵本で楽しむ英語のいっば」

リズム読みや手遊びなど、家庭でできる英語絵本の楽しみ方を紹介する講座。昨年度から実施の英語絵本に慣れてきた方向けの「2歩目」も好評であった。

・「身近な科学あそび」

身近な材料を使った工作を通して身の回りの現象を科学的に見る力を養うイベント。おもちゃ作りを通してアニメーションの仕組みを学んだ。例年平日開催のところ、今年度は日曜日に実施し早期に満席となった。講師を務める「科学とあそびの会」の活動が京都新聞で紹介された。・

・図書展示（まちとしょ）

令和7年6月から図書館1階に、市の情報を発信する特設本棚「まちとしょ」を開設し、市各部署と連携した展示を行った。各部署がポスターや啓発物を展示し、図書館は関連図書を選書した。6月から1月末までに11部署が参加した。

・ティーンズイベント（作家とゆるトーク）

図書館に足を運ぶ機会が少ない10代に、図書館を身近に感じてもらうことを目的としたイベント。市内在住の児童文学作家・やすいやくしさんを迎え、キャラクター作りのワークショップや座談会を行い、中高生同士が趣味や好きな本の話で盛り上がった。

・ティーンズイベント（中学校美術部合同展覧会）

今年度初めての企画として、公の場での発表機会の少ない中学校美術部の部員や教員の作品を地域に向けて紹介した。準備段階から生徒が参加、活動を知ってもらう貴重な機会となった。

・雑誌スポンサー制度コラボイベント

雑誌スポンサー制度のPRと、企業の専門性を生かした生涯学習の場づくりを目的としている。team UMD sport club 代表・梅田氏を招き、ウォーキングフットボール体験会を実施した。走らない・無理にボールを奪わないというルールで、3歳から80代まで一緒に試合を行い盛り上がった。1月から3月にかけて生涯スポーツに関する図書を1階で展示している。

（会長）

事務局から報告があった内容について、質問や意見があればいただきたい。

（副会長）

保護者に向けた英語絵本の選び方講座やティーンズ向けの取り組み等、様々な分野・世代に向けた取り組みがあり嬉しい。自身もイベントの運営に携わる中で、イベントには普段家ではできない体験・企画が求められていると感じる。図書館のこうした取り組みに多くの方が参加してもらいたい。

（委員）

美術部の展覧会について、市内には高校もあるので、高校生の展示もあれば良いと感じた。

（委員）

「科学とあそびの会」について、今は自治会など地域コミュニティにおいて加入者の減少が進み、人とのつながりも希薄になってきているが、会の方が楽しんで活動されている様子から、こうした取り組みは地域の活性化につながるものであり大切だと感じた。

（委員）

美術部の展覧会について、作品を地域の方々に見てもらえることは子どもたちのやる気につながる。子どもに向けて様々なイベントを行っていることが図書館に足を運ぶきっかけになればと思う。

（委員）

イベントの担当者が誰なのか、またそれがボランティア団体やサークルによるものなのかを知りたい。担当者が分かれば、そのイベントを目指して参加する方もいるのではいか。また、担当者はどのように決定しているのか知りたい。講座をしたいと思っている市民に機会の提供があれば良いと感じる。

(委員)

イベントを実施する側の目的・ねらいは分かったが、参加者の反応はどうだったのか、感想例が知りたい。

「まちとしょ」で給食についての展示があったが、小学校でも本に出てくる食べ物が給食献立に登場したり、またその本を学校図書室で展示したりと、食と本とをつなぐ取り組みを行った。こうした取り組みが図書室へ足を運ぶきっかけになると感じた。

(会長)

委員から図書館の活動についての感想・質問・意見があった。これについて事務局からの回答をお願いする。

(事務局)

イベントの担当者については、図書館開館前から行事に携わっていただいている文庫の方など、これまで図書館との関係性を築いてきたグループや団体が中心となっている。予算要求の時期までに各団体から企画書を提示してもらい、それに基づき決定している。

イベント参加者の感想例について、例えば「英語のいっぽ」については、動画やテレビ以外に本を使って親子で楽しむ方法を知ることができ、家でもやってみたいなどの感想が多かった。また、雑誌スポンサーとのコラボレーションで行ったイベントは、普段身体を動かす機会が無い方も楽しめた等の感想があった。

中学校美術部の展覧会では各日 100 人前後の訪問者があり、保護者や友達その他地域の方に活動を知ってもらうことができた。会場に感想ノートが置かれ、訪れた人のメッセージが生徒たちに伝えられた。

(委員)

参加者の方々からイベントが大変評価されている事が分かった。

(委員)

中学校美術部合同展覧会について、市内の他の中学校へも声掛けはしていたのか。今後、今回参加していない他の中学校への声掛けをお願いしたい。

(事務局)

今回は試行的な実施の為、全ての中学校には呼びかけていないが、結果を見ながら検討していきたい。

(会長)

図書館の活動は、図書館法に則って行われている。長岡京市の図書館も、ここに示された考えに基づいて市にとって必要なサービスをしていることが伝わってきた。

意見が出尽くしたようなので、次の議題に移る。

(2)令和 8 年度図書館事業計画 (案) について

(事務局)

概ね令和 7 年度と同様の事業を予定している。主なものについて説明する。

・「ぶんこピクニック in 長岡公園・勝竜寺城公園」

図書館以外の場所でのおはなし会として、昨年度までは勝竜寺城公園で年 6 回実施していた

が、令和8年度は長岡公園での実施も検討している。

・「読書講演会」

令和8年度は、教育委員会と西山短期大学との生涯学習・地域学習の分野における「連携事業」の一環として開催する。西山短期大学の講師であり絵本作家としても活躍される吉田瑠美氏による講演を予定している。

・「まちとしょ」

令和7年6月に図書館1階で開設された「まちとしょ」では、市役所と連携しながら情報発信や事前・事後学習の場を提供した。引き続き、市民の暮らしに役立ち、親しみある展示となるよう充実をはかっていく。

(会長)

事業計画について、質問・意見があれば発言をお願いします。

(委員)

1. 令和7年度に参加者から評価の高かったイベントは、令和8年度も引き続き実施するのか。
2. 向日市では電子書籍を導入しているが、長岡京市でも導入の予定はあるのか。
3. 資料の廃棄に苦慮しているとのことであるが、廃棄の際にラストワン本（府下で最後の1冊になった希少本）についてはどのように取り扱っているのか。

(事務局)

1. 好評であったイベントは、基本的に令和8年度も継続する方向性である。新規の事業が加わる可能性もある。
2. 電子書籍は365日利用できるという利便性がある一方で、導入費用やランニングコスト、さらに電子書籍そのものの価格が高額であるなど、予算面での課題が大きい状況である。また、限られた予算内で紙の本とのバランスも考慮する必要がある。他市の利用状況や費用対効果などを十分に調査しながら、慎重に検討をしたい。
3. 新しい資料の購入は魅力的な書架づくりには不可欠である一方で、書庫のスペースに余裕がないため、一定の本の除籍が必要である。利用が少ない資料や情報が古い資料等、司書が慎重に選定して除籍を進めている。ラストワン本については京都府立図書館への移管制度も利用している。

(委員)

以前行われた「ブックバトン～読み継いでいきたい50冊～※」のようなイベントは考えているのか。（※市制50周年記念事業として、市民からおすすめの本を募集し、ブックリストを作成した。）

(事務局)

現在実施の予定はないが、意見は今後の参考としたい。

(会長)

事務局から資料購入や予算についての話が出たが、資料購入費が無いと図書館は良い運営ができない。図書館の経営の三要素は「人・物（本）・金（運営していくための予算）」。平成18年にこれからの図書館の在り方検討協力者会議から発表された『これからの図書館像』では、図書館経営に必要な視点の一つとして、継続的な予算の獲得が挙げられている。

図書館は一定の予算を毎年確保し、新規資料の継続的な収集やレファレンス・電子図書の充実などを行うことで高いレベルのサービスを提供し、地域社会に貢献できる。図書館予算の継続・増額が地域社会にもたらすプラスの変化を明確にし、地域社会から評価を得る必要がある。

市の財産として残り続ける紙の本とは異なり、自館で作成したものや購入型ものを除き、利用契約が終了した電子書籍は読めなくなり市の財産にはならない。資料費の問題もあり、情報の蓄積と継承を本質的役割とする公共図書館では、まだハイブリッド化があまり進んでいない。じっくりと検討しながら進めていく必要がある課題である。

(委員)

前回の協議会で図書館での自習スペース設置について質問したが、その後の状況はどうか。

(事務局)

案件「その他」の関連質問があったため、先に「文化ゾーンリノベーション事業」について説明する。図書館および中央公民館は築約40年を迎え、老朽化が課題となっている。また、幅広い世代が快適に過ごせる空間整備やユニバーサルデザインの導入、市民ニーズに応じた機能拡充などが求められており、図書館、中央公民館、市民ひろば、池を含む「文化ゾーン」のリノベーションを検討している。来年度には市民の意見を反映しながら基本計画を策定する予定であり、学習できるスペースの設置についても、検討を進めていく。工事終了は5年後以降の見通しになる。

(委員)

図書館に要望することではないかもしれないが、5年後ではなく今すぐ学習する場を必要としている子ども達に対して、少しでも早く学習スペースを提供して欲しい。例えば空いている施設が有るのであればそこを使うなどできないものか。

(事務局)

現在は長岡京市内の自習室として、多世代交流ふれあいセンター「長岡京こらさ」と長岡京市中央生涯学習センター「バンピオ」の2か所をご案内している。

(会長)

委員の意見は大変よく分かるが、日本の公共図書館が住民に利用されず発展しなかったのは、資料は書庫にしまわれ、自習室として場所を提供していただけた時代の時代があったという背景がある。一人ひとりが資料・情報を得ることで人間として成長し、より良い地域社会を育むことが図書館の本質的な理念・役割である。本来の役割が十分果たせる図書館を整備し、さらに様々な市民の願いに応えられるサービスが展開できるとよいと思う。

以上、「令和8年度図書館事業計画(案)について」承認された。

(3)その他

・システム更新について

(事務局)

来年度中に現行システムの保守サポートが終了することから、より効率的かつ利用者の利便性向上につながるシステムへの移行を図る。更新作業は蔵書点検と同時期を予定。休館日を極力少なくするよう11月末で日程調整を行っている。

(会長)

事務局からシステム更新について説明があった。意見・質問等はないようなのでシステム更新について承認とする。

3 閉会

(会長)

以上で本日の案件はすべて終了とする。

文化ゾーンリノベーションについては、今後、まずは基本計画策定、次に基本設計、実施計画、実施設計と進んでいくが、その都度図書館協議会で市民の意見を館長に伝える機会がある。協議会は図書館が基本を押さえて活動できるよう市民の目線から館長に意見を述べていく場である。図書館のより良い活動のため今後ともよろしく願いたい。

(事務局)

熱心なご協議ありがとうございました。これをもって、令和7年度第2回長岡京市図書館協議会を閉会とする。任期が終了される委員の皆様にはお礼申し上げます。引続き就任いただく予定の皆様には、来年度もよろしく願いたい。